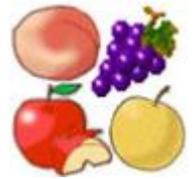


令和4年度 果樹情報 第16号

(令和4年11月2日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (11月後半、果樹研究所)

平均気温は、4半旬が14.5℃で平年より0.1℃高く、5半旬が12.8℃で平年より0.3℃低く、6半旬が10.1℃で2.2℃低く経過しました。

この期間の降水量は0.5mmで平年比1%と平年よりもかなり少なく、日照時間は101.1時間で平年比114%と平年よりも多くなりました。

2 土壌の水分状況

10月31日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで2.9、深さ60cmで2.9となっており、乾燥状態です(図1)。

(深さ40cmは6月1日から6月15日、7月24日から31日、10月23日から31日までデータ欠損)

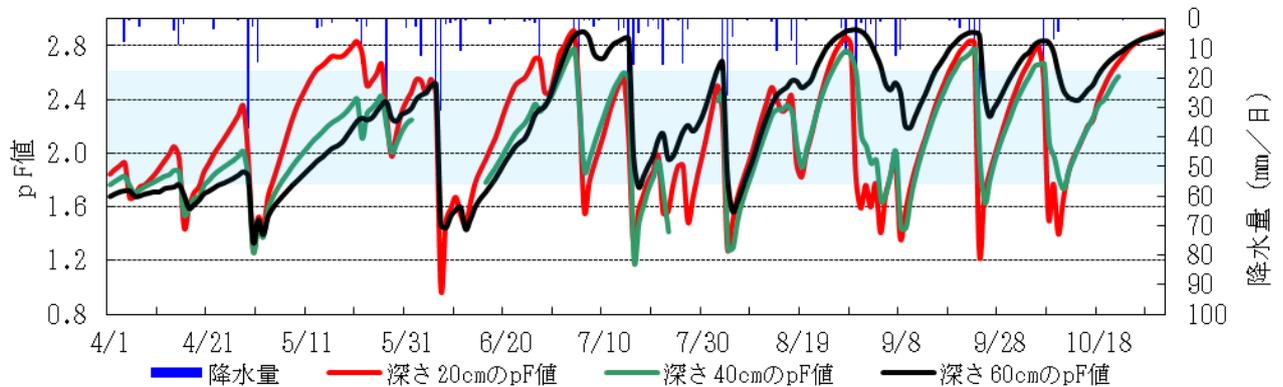


図1 土壌 pF 値の推移 (果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲 (pF1.8-2.6)

3 発育状況 (11月1日現在、果樹研究所)

(1) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が88.4mm(平年比104%)、横径が91.9mm(平年比101%)で平年並の状況です。満開後日数による比較でも平年並となっています。

イ 収穫状況

「シナノスイート」の収穫盛期は10月10日と平年並で、昨年より2日早くなりました。

果実の大きさは342gで平年並、糖度は14.6° Brixで平年並でした。

「王林」の収穫始期は10月24日と平年並で、昨年より5日遅くなりました。

10月31日(満開後192日)収穫時の果実品質(参考値)は、果実の大きさが327gで平年よりやや大きく、糖度は14.3° Brixで平年並でした(表1)。

表1 りんごの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
つがる	8/29	8/27	8/24	8/31	8/31	8/27	9/2	9/6	8/31	302	285	304	12.8	12.4	13.8
シナノスイート	10/6	10/6	10/5	10/10	10/10	10/12	10/12	10/15	10/19	342	344	340	14.6	14.7	15.3
王林	10/24	10/24	10/19	未	10/26	10/21	未	10/30	11/1	327	310	317	14.3	14.2	13.5
ふじ	未	11/14	11/4	未	11/17	11/13	未	11/25	11/25	未	358	346	未	15.5	15.4

注) 平年値は、1991~2020年(「シナノスイート」は2012~2020年)の平均。下線の値は、参考値。

「つがる」はM.26台、「シナノスイート」「王林」「ふじ」はマルバカイドウ台

ウ 成熟状況

「ふじ」の満開後189日（10月31日）における成熟調査の結果は、果実硬度が11.4ポンドと平年より低く、デンプン指数が4.3と平年よりやや低くなっています（図2、3）。果皮中クロロフィル含量及び果皮中アントシアニン含量はともに平年より低い状況です（図4、5）。

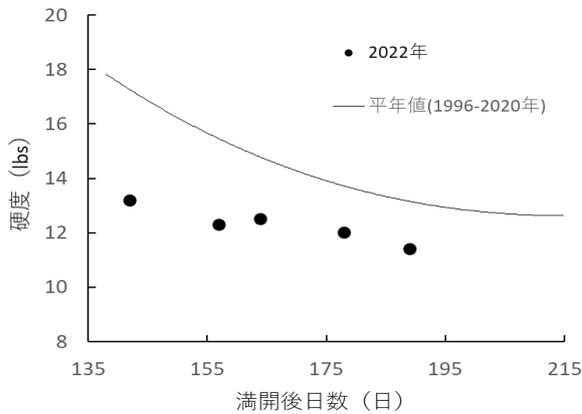


図2 「ふじ」の果実硬度の推移

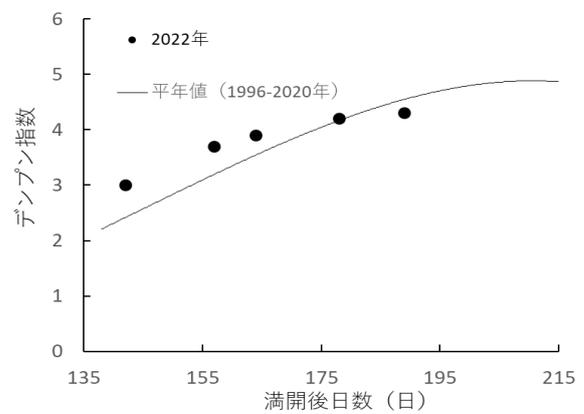


図3 「ふじ」のデンプン指数の推移

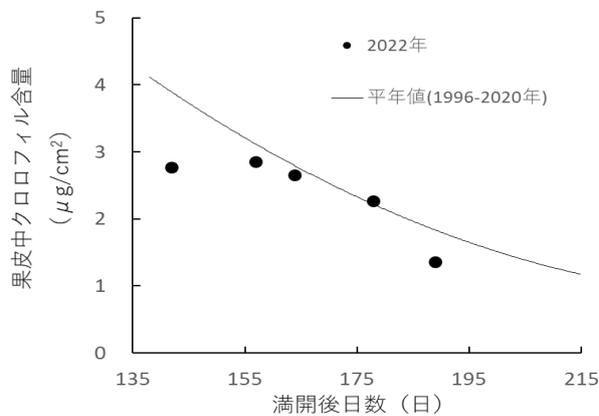


図4 「ふじ」の果皮中クロロフィル含量の推移

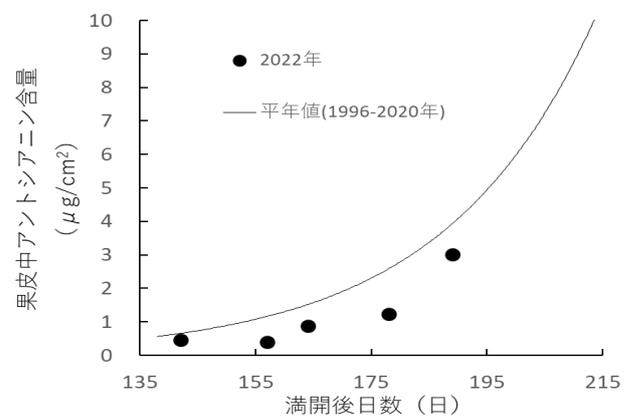


図5 「ふじ」の果皮中アントシアニン含量の推移

エ 「ふじ」の裂果発生状況

10月31日現在（満開後189日）における「ふじ」／マルバ台果実の外部裂果率は20.0%でした。内部裂果発生率は36.7%と過去2年間と比較して少ない傾向となっています（表2）。

表2 「ふじ」の満開後189日頃における裂果発生状況

調査樹	樹齢	外部裂果率 (%)				内部裂果発生率 (%)			
		2022年	2021年	2020年	2019年	2022年	2021年	2020年	2019年
ふじ/マルバ台	20	20.0	20.0	-	13.3	36.7	40.0	-	50.0

気象庁 [営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

4 栽培上の留意点

(1) りんご

ア 「ふじ」の収穫

収穫に当たっては、蜜入りの状態に加えて、果実の着色、地色及び食味等により総合的に判断しましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ナシ黒星病

秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染予防に重要です。重要な防除時期は、りん片生組織の露出(図6)が多くなる時期(昨年の果樹研究所では10月中旬～11月上旬)となります(図7)。薬剤散布は、オーソサイド水和剤80を600倍で使用し、2週間間隔で2～3回散布(キャプタンの総使用回数に注意)し、最終散布は落葉率80%頃を目安に実施します。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、薬液が棚上まで十分量かかるよう丁寧に行いましょう。

なお、10月31日時点で、果樹研究所内の「幸水」予備枝におけるりん片生組織の露出芽率は37.3%です。10月21日調査時の17.7%から2倍程度に増加しています。今後さらに芽の露出が増加するものと見込まれるため、気象情報に留意して適期に薬剤散布を実施しましょう。

また、園内外の秋型病斑が認められる罹病葉を含む落葉は、翌年の伝染源となるため、適切に処理しましょう。処理方法は、丁寧に集めて土中に埋めるなど適切に処分するか、乗用草刈機による粉碎処理(図8)により、落葉が500円玉程度の大きさになるまで丁寧に粉碎しましょう(図9)(令和4年10月20日付け果樹情報特別号「ナシ黒星病の防除対策」)。



図6 露出した芽りん片生組織(枠内)

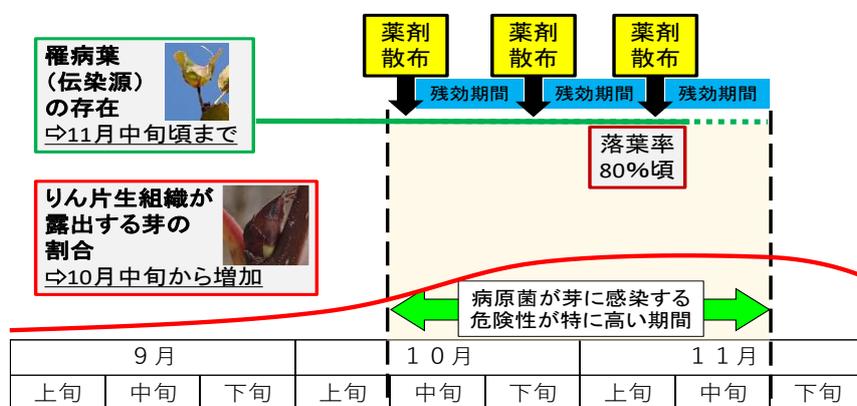


図7 ナシ及び病原菌の生態に基づく秋期防除の考え方



図8 粉碎処理の状況
(写真提供：農業総合センター果樹研究所)



図9 粉碎処理の目安
(提供：農業総合センター果樹研究所)

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>